

2014.11.24号

・首都圏骨材事情、東京、埼玉の碎石業者計画出荷に移行

首都圏の骨材出荷が年度下期に入り上向いてきた。骨材業者は新年度からの値上げを打ち出しており、生コン用骨材の値上げの浸透具合は生コンの値上げの進展にかかる。首都圏の生コン業界も生コンの値上げを打ち出しているものの、生コンは新規契約分からの値上げとなるため、既契約の旧価格での出荷が続いており骨材値上げへの抵抗感は強い。一方、輸送業者の運賃アップは待ったなし。骨材業者は粘り強く交渉を進めている。首都圏の生産・販売、輸送状況を取材した。

・国土交通省、来年2月過積載規制強化へ

国土交通省は7日、道路局長通達「車両の通行の制限について」等を一部改正し、来年2月に施行し過積載の規制を強化する方針を発表した。積載基準から2倍以上の重量超過の悪質違反者に対し、現地での取り締まりで違反を確認した場合に即時に告発するもの。

2014.11.10号

・東中濃碎石販売協同組合、生コン用碎石安定供給のためプロジェクトチーム発足

東中濃碎石販売協同組合(小西輝幸理事長、11社)は、岐阜県内外の供給エリアの生コン用碎石および砕砂の需要増に伴い、各社の販売価格を適正化して安定供給を確実にするためプロジェクトチームの発足を決めた。単粒度品に偏向する生産バランスの悪化に加え、ダンプ不足や生コン用骨材出荷における積載量の適正化など輸送問題の改善が求められるなかで、各社は来年4月出荷分から碎石製品について、300円程度の値上げを目指している。将来に向けた事業継続を図り、道路用碎石のみを扱う組合員の生コン用碎石製造への新規参入も促す。組合としての供給能力を向上し、大型物件へ安定供給するうえで協力体制の整備を検討する。

・秋の叙勲・褒章、井上山梨県砂利組合連合会会長が旭日双光章

秋の叙勲・褒章で、井上聡一郎山梨県中小企業団体中央会理事(山梨県砂利組合連合会会長、日本砂利協会関東支部長)が旭日双光章を受章した。「ひとえに組合員の皆様の支えがあつての賜物であり感謝している。前回の東京五輪特需時はダンプを運転して砂利を運んだ。今年で74歳になり同世代はほとんど現役から退いたが、東京五輪の開催する2020年までは現役で頑張りたい」(井上氏)。このほか砂利関連で勢田清三富山県土石業協同組合連合会会長(日本砂利協会理事)、碎石関連で小西輝幸岐阜県碎石工業組合理事長(日本碎石協会元副会長)が藍綬褒章を、石灰石鉦山関連で太平洋セメントグループ龍陽興産生産部副部長の林田信雄氏が黄綬褒章を受けた。